

## 第7回 県立淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地あり方検討会

1 日時 令和8年3月23日（火）15:00～17:00

2 場所 淡路ハイウェイオアシス やまもも

### 3 出席者

#### (1) 委員

高田知紀委員（会長）、澤田佳宏委員、米山正幸委員、  
山本正彦委員（代理出席の住伸栄様）、小南廣之委員、関美恵子委員、坂田隆二委員

#### (2) オブザーバー

淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理事務所、ハイウェイオアシス管理事務所、  
洲本土木事務所

#### (3) 事務局

公園緑地課

### 4 内容・議題

#### (1) 開会

#### (2) 協議事項

自然環境保全・活性化に関する基本的な考え方

### 5 議事要旨

#### (1) 開会

- 事務局より、当検討会を公開で実施し、議事録を県HPで公開することを説明。
- 事務局より、委員定数8名のうち代理人を含め7名出席で定足数を満たしており、会議が成立していることを報告。

#### (2) 協議事項

自然環境保全・活性化に関する基本的な考え方

事務局より【資料1】、【資料2】を説明。

発言者	発言内容
高田会長	前回の資料から変更したところを中心にご説明いただいた。前回の会議の時、米山委員はご欠席されていたので、分からないところとか文脈が不明なところもあるかと思うので、まずは今の説明の中で確認しておきたいこととか、分からないことがあれば質問し、その確認から始める。 初めに私から。10ページは前回、管理運営協議会と有識者会議だけだとなかなか新しく公園に関わる人が対話にどういうふうに参加できるのかというところが担保できてないので、オープンな場が必要ではないかという議論があった。管理運営協議会はある程度メンバーが決まった関係者で合意形成していく場、有識者会議はこれから公園の中で色々な

発言者	発言内容
	<p>生態系を改変したり、構造的な施設を作ったりするときに留意しないと いけないこと、あるいはデザイン上、技術的に工夫できるようなことを 専門的な知見からアドバイスをもらって、それをインプットしていく 場、そういった色々な情報がオープン会議の中で示されて、そこで公園 に関わるありとあらゆる人がここで対話をするという開かれた場、この 3つの関係機関の中で議論されたことを踏まえて、兵庫県が意思決定を していく。そういう動的な仕組みがここで示されている。それが前回か ら大きな変更のポイントである。あとは5ページのゾーニング図。ここ も前回からどこがどういうふうに変更になったのかが分かるところと 分かりづらいところもあるかと思うので、そのあたりを中心に疑問点と か確認しておきたいことがあれば、皆さんから受けたいと思うがいかが か。</p>
坂田委員	<p>前回、ハーブ園の件は一通り議論があつて、その延長で私が申し上げ ていたのが草原と花のゾーンである。このエリアが、もともとアニメパ ーク構想で使うエリアということで、この場所とそれから林間広場とE 駐車場の裏側、これは山側になるが、このエリアがアニメパーク構想で 使うエリアという形でなっていた。そこが「対話しながら使い方を考え るゾーン」ということで、陣取り合戦ではないと話をされていたので、 そういう感じかと思っていたが、ハーブ園に関しては色が変わること であれば、私どももこの場所が、少し前にスパイファミリーをやらせて もらっていた場所であるが、もともと色々な場所、ナルトエリアは、通路 の件は一方であるが、もともと野外劇場として作ったが使われてない というところもあつて、そういった部分をうまく再利用するという形で入 ってきており、ドラゴンクエストエリアの噴水エリアも何年も使われて いない状態のもので、そこを活性化、利活用していくという形で進ん でいる。他の、例えば、大きな芝生広場の横で今はもう「生態系保全・保 護ゾーン」になっているが、「自由利用ゾーン」の大きな芝生広場の左 側の崖のエリアとかは、多分普通人が入るようなところではないので、 このエリアはどうかとかいう話もあつたが、そのエリアは実現性が低い のではないかと。我々も調査はできていないが、こういうあり方検討会 があり、そこで議論することになっているからというふうに言われた。 ご存知のとおり、ニジゲンノモリは今丸9年経ち、来年10周年イヤーで ある。外国人の来場者も、昨年度で6万2000人、ちょうどこの前、淡路 の観光協会の会合に出ていたが、そこでは淡路の宿泊者が2万6000人と、 淡路島においても、外国人とか、そういった人たちが集まる力を持って いる。ここからは民間の発想かもしれないが、やはりテーマパークとい うのは、現状維持をすると劣化をしていくものである。常に新しいもの を少しずつ取り組んでいながらやっていくと考えたときに、私どもが もともと県とこのアニメパーク構想というものが公募に出て、もともと 人があまり来ない公園だったので、そこを民間活力でなんとかならない</p>

発言者	発言内容
	<p>かという、これがスタートだと思っており、できるだけ使われてないところを中心にやっていこうと。林間広場は、鬼滅の刃をした時も色々なご意見をいただいて、ここまでにしよう。このエリアに関しては、もともと管理エリアだったのが、今「対話しながら使い方を考えるゾーン」に変わるなど、E駐車場裏側のエリアに関して、このエリアはうまく開発ができれば使えるのではないかとということやっており、そこも使わないでほしいというふうに県に言われた。その時にご提案いただいた草原と花のゾーンであれば色々な、アクセスも結構厳しい場所であるので、もしかしたらそういった意味で、アニメパークの次の企画をやっていけるのではないかと、これが数年前のプロジェクト会議等々で話をされていた。私どもも1個の案件を長いこと数年かけて、ライセンスなど、様々なところと打ち合わせをしながら進めていくものであるので、もともとここがアニメパークで使う可能性のあるエリアというふうになっていたこともあり、いろんな企画とかも進めているものがある。投資も大きな投資で進んでいるエリアである。そこがそういう風に使うエリアではなく、単純に「対話しながら使い方を考えるゾーン」で進めているエリアとなった場合は、企画を進めようがないというところもあり、他の例えば林間広場、それからE駐車場の裏側、もう1個、これ今出ていないが、モリノテラスの大きな芝生広場の左側のエリアは、もしかすれば希少種とかそういうのがあれば別であるが、そうでないのであれば、全く使われてないエリアというふうに認識しているので、それに関しては対話云々というよりも、アニメパークの、これから拡大していくにあたってのエリアとして定義をして、それをあり方検討会で進めてもらえたらと思う。</p>
高田会長	<p>基本的にはアニメパーク構想が入った時の観点としては、淡路島公園によりたくさんの方が来るように、あまりまだ利活用しきれていない空間を利活用して、人が来られるように、そういうきっかけがまずあった。その中で、どの場所が活用しきれてないかというところは、色々な調査とかが必要になるが、ここの草原と花の広場ゾーンについてはもったいないスペースだということ、ここを何かアニメパーク構想として利活用できないかということを検討してきて、そこが今「対話しながら使い方を考えるゾーン」になっており、今後、言えることと言えないことあると思うが、ここでニジゲンノモリとしては企画を考えていきたいというのが現時点ではあるということ。今ここのゾーンをポイントとしては現状「対話しながら使い方を考えるゾーン」であるが、「アニメパークゾーン」というふうにするとその企画を進めていきやすくなるということかと思う。ここはもともと「アニメパーク構想で利用可能性のあるエリア」だったが、それが「対話しながら使い方を考えるゾーン」にした方がいいのではないかと議論になったのは、ここの草原で色々な虫を取るなど、そういう自然体験もできるような場所としての可能性もあ</p>

発言者	発言内容
	<p>るのではないかということ、両方の可能性があるよねということが議論されたという記憶があって、その中でここは色々な可能性があるの、その両方の可能性を残しておこうということ、現状「対話しながら使い方を考えるゾーン」の色が塗られている状況だと私は認識している。その上で、今坂田委員のご意見で、ここを「アニメパークゾーン」として考えていきたいというご提案があって、このゾーンの考え方について、まずご意見をいただきたいと思うがいかがか。</p> <p>個人的な考え方として、「対話しながら使い方を考えるゾーン」という位置付けだとアニメパークが全然できないということではないというのをまず共有しておかないといけない。これからできる新しい協働と対話の仕組みの中でアニメパーク構想を進めていくときにも、関係者の色々な声とかを聞きながら、ニジゲンノモリも考えていけると。前回言ったが、「対話しながら使い方を考えるゾーン」は本当に共に創る、共創のゾーンだと捉えてもらおうと良いかと思う。その上で、考え方としては、「対話しながら使い方を考えるゾーン」というのを共創ゾーンにするのであれば、アニメパーク構想も全然無理ではない。ただ、ニジゲンノモリだけで考えるのではなくて、他の利用者も一緒に意見を交換しながら、ニジゲンノモリが主体的に考えていく場所としても位置づけられる。現状、「対話しながら使い方を考えるゾーン」でもアニメパーク構想を進めていくというのは全然不可能ではない。ただ、今の坂田委員の話だと、社内でいろいろ議論をするときに、その根拠になるような文言が入っていないと難しいということかと思う。なので、もう一つ考え方としては、例えば「自然観察・自然体験ゾーン」と「対話しながら使い方を考えるゾーン」として掛け合わせるような利用ゾーンというふうに、この名称を変えても良いかと。自然観察、自然体験とアニメパークを両立させる、共存させるゾーンというような考え方でも良いかと思う。</p>
坂田委員	<p>もちろん我々も勝手に開発しているわけではないので、当然許可を得て、各ステークホルダーと話をした後、進める。例えば、ナルトの通路の議論は、澤田委員にだいぶ言われたが、ここにそういったものをやるということが前提で、その周辺エリアがどうだとか、こういった議論の進め方ができるような書き方をしていただけないかと思っている。このエリアで、繰り返しになるが、ニジゲンノモリが今、ドラクエとしんちゃんとなルトとゴジラが基本的にあって、期間限定のものを色々やっている。色々な意味で注目度も上がってきている中で、新しい取り組みが、今回は公園の中ばかりを見ているが、観光という観点において、例えば神姫バスは新しくそこを通るようになったりとか、新しい交通網ができたりとか、あるいはニジゲンノモリに来るけれど、帰りに別のところに寄ったりとか、橋をとにかく渡らして、そういった一助を担っているのではないかと思っている中で、新しい話題性を持ったものを発表もして</p>

発言者	発言内容
	<p>いきたいし、淡路島公園ここにありというところで、きちんと発表できるようなものをしていきたい。例えば、記者発表したり、いろんなものを行った後に、そこはやっぱりできないというような形になるわけにもいかない。ライセンサーもいて、様々いるものなので、そういった意味で、元々「アニメパーク構想で利用可能性のあるエリア」と基本的には認識をして、大丈夫とおっしゃったとしても、それが、これからのデザイン会議でも話をするようになると思うが、そういったところで、またひっくり返るようなことがあると民間としてはなかなか進めにくい部分がある。あとこのエリアが、非常にアクセスが悪いという背景もあり、なかなか動きにくいよねというのは、もともと県側との話で、ここだったらいいのではないかという話もあったようなエリアではある。林間広場はもう少しみんなが使うよねと、「アニメパーク構想で利用可能性のあるエリア」と見えるが、そこはおそらく対話しなければならないだろうというふうに思うが、一方、草原と花の広場ゾーンで、例えば昆虫を採る場合は、昆虫のイベントがどういうものを行っているからとか、反対に、そこでやるのであれば昆虫イベントをやれるようにということであれば、例えば専門家と一緒に、かつてヒメボタルを見るため、今グランシャリオでしかやっていないが、ヒメボタルを見せようということ、5月にはヒメボタルステイをやっていた。夜になって車でB駐車場まで行って見るとか、その辺の連携は当然検討しながらやっていくつもりである。</p>
高田会長	<p>アニメパーク構想で、ニジゲンノモリが企画をするからとあって、関係者と話をしないというわけではないというのが一つ今のお話で重要なポイントだったかと思う。もう一つは、デザイン会議の位置づけが、10 ページの図を特に見ていただきたいが、坂田委員の話だと、ニジゲンノモリが提案したことがデザイン会議でひっくり返ることが結構リスクとして大きいので、それは避けたいという話があった。これはむしろ作った後にひっくり返ることがないように、その前の固まる段階から配慮しないといけないこととか、技術的に組み込んでおいた方がいいことを相談するような場としてデザイン会議は位置付けられるかと思うので、むしろ最後にひっくり返らないように、きちんとその手前の段階から相談して、大事な条件を整理して、それに配慮しながら企画をフィックスしていく、そのための場というふうに位置付けてもらうと良いと思う。むしろ、そういったガラッとひっくり返らないようにするためのデザイン会議という役割を共有しておいた方が良くと思う。以上のことも踏まえて皆さんどうか。草原と花の広場ゾーン、結構大事なポイントになるかと思うが、</p>
住様	<p>今坂田委員のお話を聞いていて、問題になるのが、もしかすると、あまりにも事前には相談できないみたいな部分があって、今温めている企画であるとかをあまりにも早く外に出すことはできないという段階が</p>

発言者	発言内容
	あるから厳しいということをおっしゃっているのかと思ったが、そういうことなのか。しばらくは社外秘であるという期間が割と長くて、そのあたりから本当はいろいろ交渉を進めているから、その段階でデザイン会議とかにかけることが難しいという話なのかとそういうふうに聞こえたがどうか。
坂田委員	もともとデザイン会議ではなく、プロジェクト会議で、こういう企画でやりたい、プロジェクト会議がそれに代替するものだったので、そこに企画の全貌を出していく。この時点では、住委員がおっしゃるように、もちろんライセンサーがあるので、あまりいい加減な企画は言えないので、それと発表前というところがあったりするので、そこではこういう概要のこういうものやっつけていこうと思うというお話を、そこに投影面積分の費用がこのぐらいになるという、そこら辺の話をして、それで実際に工事に入ってやっつけていくというそういう形のものになっている。したがって、その前から話ができないというよりも、これまでのプロジェクト会議という形態でやっていた部分があるので、そこではプロジェクト会議にしかるべきタイミングで図ってやっつけていくという、そういうやり方をやっていた。
高田会長	住委員のコメントとしては、もう決まって動かさない状態で色々ところに情報が出てくると、対話しようというか、意見の言いようがないので、もう少し前の決まる段階で一緒に検討するということが可能なかどうかというところ。
住様	そこは想像できる。まだ外へ出せるような状態ではない段階で、住民に言ってしまえば、バツと広がるわけである。そこがやはりネックになるだろうし、そうすると逆に住民側からの立場だと、もう決まったからと言われて、もう動かさないと言われてたら、やはり少し反感を持ってしまう。だからあり方もいいが、企業イメージの見せ方とかもすごくあるかと思って、、住民が文句言ってひっくり返されたみたいなふうに思われるのもこちらも嫌だし、お互いに気分悪いので、それが妥協点みたいな部分で、なるべく早い段階で、こういう色々な対話の場にかけていただけのような... もちろんこんなものはするなというような話ではなくて、やるのであれば、最低限これは堪えてくれないかというのが住民からの要望なわけであって、頭から否定するわけではない。その辺、少し余裕を持ったスケジュール感でいくということが可能だったら、そういう坂田委員が懸念されているような問題も起きてこないのではないかと感じる。
高田会長	すごく大事な議論で、民間活力を導入するときに、民間企業だから情報を出せないとか、民間企業のスケジュールがあるけれど、でもやはりここは公園で公共利用を基本にして、みんなが日常利用できるような場所を担保し、その中で、ここに人がたくさん来てもらうために、アニメパーク構想を重ねていく。それで人がたくさん来て魅力が高まるという

発言者	発言内容
	<p>のは、あり方検討の議論の冒頭にも価値として示されているので、そうなった時に、民間企業としてのニジゲンノモリが、ある程度自分たちのアイデアを考える中で、今住委員がおっしゃったみたいに、市民の懸念していることとか関心をきちんとピックアップして、それをもとに社内で議論できるような機会とか場があれば、市民もいろいろ後で言わずに済むし、それがまさに共創、一緒に作っていく価値を高めていくということにつながるのではないかということ、そのあたりは社内の体制のこととかもあると思うが、それはすごく公園という場所で民間企業と市民と一緒に公園の価値を高めていく上ではきちんと意識しておかないといけないポイントかと思う。その辺はなかなか難しいと思うが、そういうある程度固まる段階、固まる前の段階から、意見をやり取りするというのはできそうか。</p>
坂田委員	<p>住委員がおっしゃったみたいに、情報の統制が非常に重要にはなってくる。一方で、どこまでできるか、我々も隠したままするつもりがあつて、やっているわけではなく、今お話しいただいたみたいに、こういうのをやるので、ご助言いただいたりとか、あるいはここは注意してくれと言われたりとか。ナイトウォークが決してウェルカムではないのは承知の上だが、ナイトウォークにおいてもこのエリアを避けてくれという部分は避けるとか、そういった部分はもちろんやる余地が一方ではある。実際にデザイン会議に出す段階、プロジェクト会議に出す段階というのがある程度、固まった状態でないと評価しようがないというのが一方であるので、事前段階で決定したというより、企画がある程度出来上がった状態でお話をすることになるので、見え方によっては、もうそれ出来上がっているのではないかと見えている部分も一方ではあるのではないかと思う。その上で、その前段階がどういう状態かというのは結構難しく、図面に落とせていない状態のもの、パースの状態のものとか、そういった状態のものとかで、どこまで出せるかというのは、企業としても善処できるところはやっていけるように、努力して、おっしゃるように公園でさせてもらっているの、そこに関して意見をいただきながらやっていくという、ここに対して否定するものではないので、そういう進め方ができればと思う。</p>
澤田委員	<p>どの段階で情報をどれぐらい出せるかというのは、企画が煮詰まっていく、そのステップによってどんどん変わってくると思う。公共の場所で何かの企画をやっていくことになると、まず「どの場所で、どのぐらいの面積で、いつから占有・占用しようとしているのか」、企画はその段階では示せないとしても、大雑把に言ってホラー系とか、それぐらいの話が必要。作品が何かとか、そこで具体的なプログラムが何かというのは、多分我々はそんなに気にはしないと思う。いつから、どれぐらいの面積で、そこをいつまで占める予定があるとか、そういう話を早い段階でして、それだったらいいのではないかという判断ができて、その場</p>

発言者	発言内容
	<p>所が使えるということが決まって、その次のステップに進まれるわけである。企画の具体的なところが決まっていない段階でも“こういうことを検討している”というところからデザイン会議に入ってきても良いと思う。その後に煮詰めていく段階でそれが進んでいけばそれはそれでいいし、結局あの話は断ち消えたという場合には、それはそれでまた報告していただけたら済むかというふうにも思うがいかがか。</p>
高田会長	<p>私は澤田委員のいつからどこで、ざっくりとしたテーマはホラー系で鬼滅の刃なのか、ゲゲゲの鬼太郎なのかみたいところはあんまり気にせず、でもどれぐらいの規模で、どこでということ、この段階で他の公共事業で、合意形成の場合だと、初めに広報とか技術とか予算が決まる前に、ここで例えば海岸であれば浸食対策をするときに、利用している市民がどういう利用をしているのか、何に配慮してほしいのかということをもとに拾い上げた上で、広報とか、積み上げをしていくというのをよく行っている。今までは、工法技術とかが決まった段階で出ていたので、そこでここは実は虫取りできていたんだとか、花見でこういうふうにできていたんだというのができなくなるというので、そうなりやったりプランを変えざるを得なくなるので、その前の段階で配慮すべき事項とか大切にすべき事項というのはオープンに聞いておくということは割と簡単にできるかと私も澤田委員がおっしゃったみたいなので、そういったことを1回やってもらって、社内で検討して、また出せる時になったら出せるレベルで対話の場に出すということができると、住委員がおっしゃったリスクはかなり軽減できるかなと思う。</p>
坂田委員	<p>会合が定期的に行われないので、それはある意味別途メールとか送付してご意見くださいという形とか、そういったものも併用していかないと、なかなかスピード感的には難しい部分はあったりする。もちろん今動いているいくつかの企画のものに関しても、これも早々に、そういった意味では1回ご意見いただいてというもので、その辺が年に2回とかの会合と若干我々もペースが合わないケースがあるので、その辺はご考慮いただけたらと思う。</p> <p>話を戻すと、このエリア自体のものと「アニメパーク構想で利用可能性のあるエリア」という部分の表記だけは、あり方検討会においては、少し考慮いただく形で表記していただかないと、何も進まないというところがあるので、そこだけご検討願う。</p>
高田会長	<p>「アニメパークゾーン」というのも一括で考えるのか、既存で今使っているエリアを「アニメパークゾーン」にして、新しくこれから構想するところは、「対話しながら使い方を考えるゾーン」と「アニメパークゾーン」の間みたいなゾーンを分けて作るか。これからアニメパーク構想をしていくときに、公園の関係者と対話をしながら共創していくアニメパークゾーンみたいな、分類が細かくなってしまいが、そういう風にしておくと、今したような議論がきちんとゾーンに落とし込むこともで</p>

発言者	発言内容
	<p>きる。それが細かすぎるのであれば、私は「対話しながら使い方を考えるゾーン」で、アニメパークの構想に寄っているけれど、「対話しながら使い方を考えるゾーン」と考えても、矛盾はしないかと思う。アニメパークというのが入っておくというのが大事なのか。</p>
澤田委員	<p>今されているのは、「対話しながら使い方を考えるゾーン」として、その次の、実際ここをアニメパークとして利用したいというテーマの議論が始まっている状態になっているかと。この先のことを思えば、とりあえず「対話しながら使い方を考えるゾーン」にしておくけれど、今当面ここに関しては早急に議論を進めておく必要があるというのが今の状況なのかと思った。</p>
坂田委員	<p>そうである。本来、去年1年間このあり方検討会の間に、プロジェクト会議が別途行われて、そこに提出して進めるものではあったので、あり方検討会があって、それがどのぐらいの長さになるかが見えない中でというところもあり、ここに関しては澤田先生がおっしゃるように、そういう事情もある。</p>
高田会長	<p>澤田委員がおっしゃったみたいに、「対話しながら使い方を考えるゾーン」と位置付けておいて、具体の議論として、ここをアニメパークとして進めていくために、対話を優先的に進めていくゾーンという、この記録だけがあればいけるという感じか。</p>
坂田委員	<p>細かい表現の問題で恐縮であるが、社内にも色々なステークホルダーがいる中で、リスクがどれぐらいあるのかといった時に、もともとの従来の公募に我々が出した時に、アニメパーク構想というものがあって、そこでアニメパーク構想で使う可能性があるゾーンという見せ方をしたもので、それがこのあり方検討会でガラッと変わったという見え方だけがあまりよろしくなく、そこは引き続き可能性のあるエリアというところで進めてもらえたらとは思っている。</p>
澤田委員	<p>実際に今まさに動いているプロジェクトが絡んでいて、あり方検討会も1回余分に延びているという色々な事情があって、きっとそうになっている。なので、時限的にここについては、この会議の中でも何らかの結論を持って帰らないと具合が悪いというところかと思って。大部分は「対話しながら使い方を考えるゾーン」でいいけれど、そこだけ今別途考える必要がある状況になっているということか。それならそれでこの中でやってもいいのではないかと思うが、他の方はどうか。</p>
住様	<p>このゾーンはもともと「アニメパーク構想で利用可能性のあるエリア」として、初期から、今までにも何回か仮設のものが作られて、ニジゲンノモリが利用されていたわけであるが、実は今回のゾーニングの変更にあたって、坂田委員からの提案があって、外側の斜面部分も入れてくれという話だった。それで今回外が入った、なので真ん中のへこんでいる部分だけが、今までは「アニメパークゾーン構想で利用可能性のあるエリア」だったところを斜面も入れてくれと。それで、聞きたいこと</p>

発言者	発言内容
	は、今進んでいる話は、その斜面の部分も含めて利用される話なのか、もともとの「アニメパーク構想で利用可能性のあるエリア」とされていた、底の部分で進められている話なのかというのはどちらになるのか。
坂田委員	平らな底の部分だけである。斜面とは、すり鉢用の横の斜面か。
住様	そうである。要望されていた。
坂田委員	今回は底だけである。
住様	こういった対話がきっと必要となるのではないか。
高田会長	<p>こういう具体の場所の検討、こういう話が至るところで何か使い方を考えようとした時に関係者で参加してできるかどうかということだと思ふ。このゾーンだと、こういったことから「対話しながら使い方を考えていくゾーン」の大きな意味になってくるかと思ふ。今いろいろ実際に進んでいる企画のこととかも含めると、ここが純粋に「対話しながら使い方を考えるゾーン」という見え方になってしまうと、なかなかその企画を進めていくことが難しいという事情を坂田委員から共有していただいたので、ここのゾーンの考え方として一つは、「対話しながら使い方を考えるゾーン」で、こういうことをやっていくということに注意書きとして書くというのが一つあるかと。もう一つは、ゾーンの考え方を今議論したように、先ほど澤田委員が提案してくれたみたいに、ここを実験的に違う色にしていく。例えば、共創でアニメパークを実現するゾーンとして、実験エリアとすると、こういう事前の段階で対話をしながら意見も市民が言えて、アニメパークも考えられるということになるかと思ふ。もう一つは「自然観察・自然体験ゾーン」と「対話しながら使い方を考えるゾーン」を重ね合わせるみたいな考え方もあるかと思ふが、ここのゾーンの考え方を議論した方が良いかと思ふがいかが。</p>
小南委員	<p>原則的に、活性化ということを考えて、県の方は民間を受け入れてきた。公園をもっと大勢の人が利用できるよということ、そのあたりの原則的なところで、公園は無料で入って利用できるのが本来の公園である。そこへ有料の区域ができてくるということで、これは基本的に相反することがこの淡路島公園で起こっているわけである。それは活性化をすることで折り合いをつけて今やってきたので、今お話を聞いているとまだまだアニメゾーンが増えていく可能性があるということになるのか。そうすると淡路島公園はどうなっていくのかと考えた時に、地元の者の考えだけで見ると、それは利用のことになるけれど、自然を考えた時に、本当に自然を維持した上で、どこまで利用できるのか、このあたり、一つは県のしっかりとした方針というか、どう考えていくのかというあたりを、しっかりと聞きたいと思ふ。そうなってくると、この「自然観察・自然体験ゾーン」の部分も、これからどんどんテーマパークになる。それがうまく共存できる範囲があるのではということ、今話を聞いていたら、次から次へとそういうことになってくると、本来の淡路島公園がどこかに行ってしまうのではないかと、そんな危険性を</p>

発言者	発言内容
	<p>今話の途中から聞いていて感じた。その辺、基本的に県としては、他のところに比べて、新しいやり方でやっているけれど、どこらへんが歯止めになるかということが私は心配している。</p>
高田会長	<p>確認しておきたいのは、1 ページに淡路島公園の価値と方向性というところに、基本的にはこの淡路島公園は、日常利用を損なわないように、でもニジゲンノモリが入って、色々な人がこの公園に触れてもらうきっかけができていこともここで共有したので、それを共存させていく、そのためのあり方検討であり、今後の協働の体制である。それは今事前に全部決めきれないので、具体的にこれから何か動かしていこうとした時に、例えばこの草原のゾーンを考えていく時には、今小南さんがおっしゃったみたいに、テーマパークにならないように、自然も大切に人が新しく来てもらうようなきっかけになるようなアニメパークのやり方がないのかをきちんと考えていく。そういったことをこの1 ページに理念として書いているので、それをまさに担保していくための議論がこの7回の議論であったというのが私の認識である。その上で事務局から、今の小南委員のコメントについて何かあればお願いします。</p>
事務局	<p>高田会長がおっしゃった通り、そのためにこのあり方をやっている。その中でこのゾーニング図も、そういう意味で作ることになっているので、おっしゃったように、今後歯止めなく、皆さんが分からないままに、どんどんアニメパークになるのではなくて、皆さんの認識のもとにゾーニング図を作って、エリアを分けていこうと、これはもちろん陣取り合戦ではなくて、双方の話し合いの中で決めていこうというところが趣旨である。</p>
澤田委員	<p>自然とテーマパークとの対立ではなく、ここは最初から言っているように、公園の公共性と民間活力による活性化とのバランスの問題だと思っている。このあり方でも、この基本的な考え方の今後の方向性の1つ目で、「公園の価値を基礎づけている豊かな自然環境を大切にしながら」という言葉と、それから「地域の日常的な利用を維持する」ということも書かれていて、その上で活性化を進めていこうとしている。ゾーニングが大事なのではなく、今回のこのあり方検討で一番大事なのは、今後の合意形成の仕組みの部分だと私は思っているが、その合意形成の仕組みの部分もきちんと整理されている。デザイン会議と、それからオープンな会議というのが今回出てきていて、その中で担保していこうとしているので、これまでよりはだいぶ良くなるだろうと思う。今までは、覆らない段階で話が来て、その都度自分たちが大事だと思っていた部分が変わってしまうという体験をこれまでのユーザーはしてきていて、その中でお互いに不信感を持ってきたという部分はあるのかもしれない。そういうあまり良くない関係がずっと積み重なってきていたところを、これからいい方向に変えていくためのあり方というのが今できようとしているので、これはすごく私はいいいことだと思う。</p>

発言者	発言内容
	<p>さきほど会長が「アニメパークゾーン」と「対話しながら使い方を考えるゾーン」の間を作るという話、あるいは「自然観察・自然体験ゾーン」と「対話しながら使い方を考えるゾーン」で作るかという話をされていたが、私は基本的にはこのままでもいいと思っている。坂田委員が文言として違うものを持って帰らないことには、そのプロジェクトが進まないという話もあって、それはタイミング的にきつと急いでいる話で、あり方検討会が伸びたこともあるが、ゾーニングはこれで進め、ただ、同時進行しているので、特例で1個だけ違うゾーンを作るという話にしておいた方がいいかと思う。そこはアニメパークの場所であるというふうに今の段階でゾーニングに色を塗ってしまうと、これからの対話、これからの合意形成のあり方を決めるあり方検討の枠を超えてしまうので、ここでの色付けはこれ、ただ、同時進行のプロジェクトのために、今回もデザイン会議なのか、オープン会議なのか、どの位置付けかは分からないけれど、期間限定というか、今のこのタイミングだから仕方なしの色を1個、「アニメパークゾーン」と「対話しながら使い方を考えるゾーン」の間の色を1個作るというふうなやり方であれば、ニジゲンノモリは企画が進められるようなステップになるので、当初考えていたこのあり方の色分けとあり方の合意形成プロセスを作ることをしておくというやり方がいいのではないかと思うがどうか。</p>
高田会長	<p>澤田委員が整理していただいたみたいに、個別の事情を長期的に使うゾーニングに反映させない方がいいかというのは、私も澤田委員の意見を聞いて思ったので、言っていたように「対話しながら使い方を考えるゾーン」として、この下の方に網掛けして、ここについては2026年度から具体的にアニメパーク構想を市民と対話をしながら進めていく実験的エリアみたいな、そういう位置付けで注釈をつけておくのが、ゾーンと実験で具体的に進めていくところと分けられるかと私も思う。ゾーンの外側にそれを具体的にそこまで動くというところまでを、あり方検討で一応合意をして、4月から動かしていくという分け方である。私もそれが一番今後に影響なく、なおかつニジゲンノモリの事情とか、今のスピード感も含めて、具体的な落としどころとしては考えられるかと思う。そのあたりいかがか。</p>
米山委員	<p>私はこのままでいいと思う。「対話しながら使い方を考えるゾーン」を一発目として、そのゾーンを設定するのであれば、このままで進めていく方が一番いいかと、わざわざ違う色を作らなくてもいいかと思う。少し戻るがオープン会議を今度作るということで、澤田委員が、最初言われたようにこの場所で、これだけの大きさ、広さで、これぐらいのものを作りたいというぐらいまでは多分ニジゲンノモリも言えると思うので、それをまず出してもらって、今度、やはり企業側からすれば、サプライズ的なものも必要になってくるかと思うが、今度こんなものを作ると言って、3年後5年後にできたというのはそんな話にならないこ</p>

発言者	発言内容
	<p>とであるし、ある程度は大きさとか場所とかはある程度示してもらって、そこを使っていいか悪いかを検討して、いい方に歩き出した時に今度内容を詳しく、全部オープンではなくて、その時は全部オープンでなくてもいいと思うが、主要な所である程度までOKをもらえば、それ以降はこんな建物をこういうことで、テーマはフルオープンにしなくてもいいと思う。</p>
高田会長	<p>出せる情報の中でも、きちんとコミュニケーションを取ろうとする姿勢が大事で、住委員がおっしゃったみたいに出てきたものを全部反対するわけではなくて、大切にしたいものをお互い共有した上で、公園の使い方を考えるという、すごく当たり前の手続きなので、米山委員におっしゃっていただいたみたいに、ぜひいろいろ出せる段階で出せるレベルで、出していただくということが重要になってくるかと思う。そういう意味で言うと、「対話しながら使い方を考えるゾーン」という、その中で注意書きして、このゾーンをまずとっかかりとして、やっていくゾーンとして注意書きを書くのがいいかと、それでよろしいか。ここのゾーンの考え方については、坂田委員もそれだと社内の議論もなんとかできそうな感じか。それも書くだけではなくて、ぜひそれを実践して、こういうやり方をやったからここはより良くなったというふうになるように、公園に関わる皆さんで協力してアイデアを出し合いながら作っていったらと思う。</p>
澤田委員	<p>今日その結論の部分があると思う。</p>
坂田委員	<p>一刻も早くと思うが、それがこの後のデザイン会議とか、いつ行われるかとか、これが決定してない中で、私たちとしても、そこを使って、当然これから詳細は議論をしていくが、こういうことをやるという一発目のリリースとか、その辺の準備があるので、このエリアでそういうものをやるというものとかに関して、少なくともこのエリアでの実施というところは、出す必要がある。</p>
住様	<p>そうすると、その対話の場というものが具体的にどのように持たれるのかということを決めないと、坂田委員も持ち帰れないと思う。その話をとりあえず、そういうこともありながらも、今回新しく図を作ってくださいただけれど、これでは具体的なイメージが全くできない。オープン会議というのは一体誰が開くのか、誰が呼びかけて人を集めるのかということが全く分からないので、具体的に、ただポンとこれであげられても、誰もやらないで終わりとこれではなってしまうので、そのあたりの具体的なところをお聞かせいただきたい。</p>
高田会長	<p>仕組みの議論に移ってきたので、10ページの、オープン会議をするのであれば、今のここの草原と花のゾーンも含めて具体的に1回目のオープン会議やデザイン会議というのはどれぐらいの、今明確に何月何日というのは難しいが、どれぐらいの時期に実施するのかということと、これをそれぞれマネジメントする、あるいは呼びかけたり、声掛けしたり</p>

発言者	発言内容
	<p>するのがどういうふうになるのかというところで、そのあたりを県の現時点でのお考えとかあれば、ここで説明いただきたい。</p>
事務局	<p>開かれた自由対話の場ということで、できるのであれば、明石公園で今やっているみたいに色々な方に来ていただいて、色々な意見を言う場が設置できたらと思っているが、それは正直やってみないとわからないというところがあり、どれぐらいの方が参加しようと思っているのか、どういう場で集まれるのか、一部の方だけが来るような対話の場だと、それはそれでオープンな会議にならないので、色々な方に来ていただけるようにしたい。単純に考えているのは、公募でこんなことをするが皆さん意見を言う場に参加してみないかと呼びかけて、一度募集してみるかとは思っているが、実際それができるかどうかはやりながら検討していきたいと今は思っている。</p>
事務局	<p>とりあえず明石と同じようにやるのかと思っており、明石は年に4回ぐらいオープンな場をやっている。明石の場合、有識者会議があるので、ひょっとすればそれと同じぐらいやらないといけないのかと思う。オープンな会議は、明石がやっているように、広報で、例えば淡路島公園の広報で皆さん集まってくださいという形になると思う。どれぐらい集まるかというのは分からないが、その辺は先ほども言ったように、やってみないと分からないところがあるので、とりあえず1回目をやってみるかと思っている。当然やるのは、当面県と指定管理者であるが、今の水準書には入っていないので、どこまで協力を得られるかというのはあるが、明石と同じように、県と指定管理者、そのあたりは今後の議論かと思う。淡路島公園も来年度公募になるので、次の指定管理からはそういった仕組みを水準書上に入れ込んでいこうかと思っている。来年度は試験期間的に県の方で主体的にやらざるを得ないかと思う。</p>
高田会長	<p>今明石公園の例が出たので、私は明石公園のこういう共存の仕組みのコーディネーターをやっているので説明すると、こういうオープンな会議みたいに開かれた対話の場の運営は、県と明石市と指定管理者とコーディネーターが共同で運営してマネジメントをしている。そこに参加してもらう人で、特定の人たちだけで議論すると、その特定の関心だけで公園のあり方が決まってしまうので、参加する人たちも色々な人に声をかける。例えば楽しもう会とか関さんとか小南さんとか色々な公園に関わる人が、この会議に来てと言うことをみんなで声を掛け合いながら色々な人が集まれる場を作っているというのが現実である。それはマネジメントする時に人が集まらなければ、県とか指定管理者が全然声をかけていないからだというのではなく、そこに参加する人たちも色々な人に声をかけて集まってもらうということはかなり努力をしてやっている。なので、淡路島公園でもそういったみんなの声がけというのは必要になってくるだろうというのが一つある。あと年に4回ぐらいやっていると、なんとなく公園の中で動いていることは追えるという感覚は明石公園</p>

発言者	発言内容
	<p>のではあるので、淡路島公園でもそれぐらいの頻度でやって、もう少し増やした方がいい時期もあり、あるいは年2回だけで動かない時はいいと思うので、それはその状況を見ながらやっていくことになるかと思う。もう一つは、例えば次年度は試験的にやっていく期間ということで公園緑地課の方で指定管理者と相談しながら頻度とか、あるいは告知の方法とかも含めてやっていくことになるかと思う。基本的には、この前の9ページの中で有識者会議は管理運営協議会の中に入っているので、オープン会議についてはその位置付けがまだ不明確だということで、デザイン会議は管理運営協議会の中でマネジメントするというイメージか。</p>
事務局	<p>そこもメンバーがそれでいいのかどうかというところもあるが、一応協議会の中に位置付ける、最終は協議会のところに持っていくのでという意味で、この図の中に入れていただけである。今までのプロジェクト会議は、協議会と関わらないところで動いていたので、そうではなく、協議会に関わるという意味での図なので、メンバーとかをここで一緒にした方がいいのか、それともさらに協議会に加わってもらう方がいいのかというところは考えたいと思う。</p>
高田会長	<p>このメンバーだけですぐに議論しないといけないのがこの草原のゾーンで坂田委員はいつぐらいに意見を聞いておきたいとか市民の意見、利用者の意見とその専門家のアドバイスと両方あると思うが、いつぐらいまでにみたいなのがあるのか。</p>
坂田委員	<p>発表のタイミングによるが、今の状態での企画であれば、伏せるところは伏せて、説明をいつでもできる状況にはある。なので、例えばこのデザイン会議の有識者の選定に時間がかかるとか、そういったものであるならば、私としては、去年1年間あり方検討会やってきたと思うが、その期間にいろんなものが止まっているのは止まっているので、そこを例えばこの皆さんをもって、1回ご説明申し上げる機会とかは、対面でやるのか、書類を一旦見ていただいてやるのかということはあるが、そういう形で早急にやりたい。年度内には一度やりたいというイメージである。</p>
高田会長	<p>このあり方検討の大きな議論はクローズした後に、仮にこのあり方検討のメンバーぐらいに情報共有をして意見交換会みたいなのがしたい。それはなるべく早くやりたいということか。それはスケジュールが合えばできるかと思うが、年度内だと難しいかもしれない。</p>
澤田委員	<p>今行えばよいのでは。</p>
高田会長	<p>何か資料を出せるのか。</p>
坂田委員	<p>資料はない。議事録を非公開にさせていただくことはできるのか。</p>
高田会長	<p>以降の議論は非公開とするがよろしいか。(異議なし) それでは以降の議論は非公開とする。</p>

発言者	発言内容
高田会長	オフィシャルな議論に戻りたいと思うが、10ページの協働の仕組み、オープン会議や有識者会議については年度明け、スケジュールもなるべく早めに開催するというのを、とりあえず事務局には願う。
澤田委員	この9ページと10ページで、10ページにオープン会議というのが書かれていて、このオープン会議が9ページのフロー図の中でどういうところに入ってくるのかがわかりにくい。10ページにオープン会議があると書かれてはいるが、誰が招集してどれぐらいの頻度であるということも分からない。これでいえば結局、県から出てくる矢印で、オープン会議の矢印もこの9ページのフロー図のどこかには入ってくるっていうことか。
事務局	このフロー図に入れきれないが入ってくる形になる。この三角のところにも管理運営協議会とあると思うが、協議会と有識者会議が今協議会の中に出ているが、オープン会議も三角のフロー図の中で関係してくる。
澤田委員	今回はおそらくこのあり方検討会の最後で、これで決まりの資料としてこれがあるだろうと思うが、オープン会議の位置付けはもう少し分かりやすいほうがよいかと思う。
事務局	イメージ図を反映できてないというところか。
澤田委員	そういうことである。9ページと10ページが、10ページだけが少し浮いているというか、ここで書かれているオープン会議はすごくいい提案ではあるとは思っている。あとは事務局にお任せで、その修正してもらえたら、私はそれでいいかと思う。
高田会長	<p>基本的には10ページのような動的なサイクルを前提の考え方として踏まえ、その中でこれは三角形で時間軸をあまり意識せずにぐるぐるとしている。それをフロー図に落とし込んだ時に、オープン会議が管理運営協議会と有識者会議、デザイン会議との関係でどうなってくるのかということだと思うが、おそらくこの9ページのフロー図に落とし込むとすると有識者会議の横にオープン会議があり、そこに双方向の矢印があるようなイメージかと思う。その中で有識者会議が協議会に提案してという形になるかと思うので、そういうふうに図を修正してもらおうと、全体の動的な仕組みとフローがわかりやすくなるかと思う。</p> <p>他に仕組みのところはいかがか。あえて時期は言わずになるべく早めにこのオープン会議とデザイン会議の体制を整えてやってもらうということもあり方検討会からリクエストとしてあげておく。</p> <p>他いかがかゾーニング図と仕組みについて皆さんご意見があれば、よろしいか。</p> <p>今日はこれであり方検討会自体はクローズしたいと思うので最後に皆さんから一言ずつ、今後の淡路島公園と石の寝屋緑地の明るい未来に向けて、一言いただきたいと思う。意思表示でも結構で、この7回の議論を振り返ってみて、感じられたこととか、大切に思ったことというの</p>

発言者	発言内容
	を皆さんから一言ずつお願いする。住委員何かあるのか。
住様	前回時間がなかったので終わってからメールで質問させていただいたことがあるが、それについて回答をいただけていない。
高田会長	今改めて質問内容をお願いする。
住様	質問させていただいた内容で、一部は反映していただいている部分があるが、ゾーニング図が3枚あり、3枚目の「淡路島公園 配慮・留意すべき対象（非公開）」というゾーニング図についての質問を前回終わってからメールでさせていただいた。ニジゲンノモリ提供となっているものについては、平成29年度の環境調査の結果で、非常に古いものである。それで我々が出したのも、環境調査として行ったものでもないわけである。第1回と第2回のあり方検討会では、環境調査について随分と盛んに意見交換されていたと思う。その中で事務局からは、県としても色々工夫した形でエリアを絞るであるとか、市民調査で行うであるとか、なるべく経費をかけないように環境調査をするつもりだとお答えをいただいたと思う。一つはそういう環境調査を今後行わないのか、どうなったのかということ、もう一つは、委員の方たちの議論の中で、公園管理事務所が主催して行っている自然観察イベントのデータを活用してはどうかということ、探鳥会であるとか、昆虫の観察会であるとかのデータがあるので、それを使ったらいいのではという意見も出ていた。私たちとしては当然管理事務所の方に提供を依頼されているものだったので、管理事務所の方で持っていない植物のデータについてはこちらで自発的に提出したわけである。だがどうも管理事務所の方からは、その鳥とか昆虫とかのデータは提供してもらっていないみたいだ。今後県がずっと環境調査するからそれはもういいという判断で提供を受けなかったのかと思ったが、その辺りはどうか。
高田会長	今後の調査の計画予定についてと、今までの情報の収集と活用についてのご意見であった。
事務局	それがまだできていない状態ではあるが、環境調査はやらないといけないと思っている。前申し上げたように、コンサルを取ってやるほどの予算は到底用意できないので、皆さんの協力を得ながらやるしかないが、頻度とか毎年何を更新した方がいいのかとか、そのあたりも逆にご意見を伺いながら、年に1回は皆さんでデータを持ち寄って反映しようとか、そのあたりもどうすればいいのかというのは、逆にご相談したいところである。
高田会長	これから検討していくということだと思うが、私からも県というか事務局にお願いで、情報がいろんなところに散逸している状態というのはもったいないので、色々な人が活動している情報を、どこかに集約しておいて、そこに行くとなんとか情報が一元的に管理されているというような状況が生まれると、お金をかけずに公園の状況を把握できるということができるので、そういったことも今後、新しい協働の仕組みの中

発言者	発言内容
	<p>で、実現していただけたらと思う。そういう情報集約の仕組みみたいなのも、これからこの淡路島公園の重要な検討テーマになってくると思うので、そのあたりは本当に市民プロジェクトとしてやるのか、公園の中の重要な計画の一つに位置付けるのかということ、まさにみんなで議論していく。とりあえず今あるような情報は集めておけば、これから新しく始まる対話の中で、そういう情報を参照しながら意見交換もできるようになるかと思うので、一点、私からもそれは付け加えておきたいと思う。</p> <p>他はよろしいか。では、先ほど振ったように、皆さん一言ずつこのあり方検討会を振り返って締めコメントをいただきたいと思う。米山委員からお願いします。</p>
米山委員	<p>淡路島公園のように、これだけ自然の中にアニメゾーンがある公園は本当に珍しいと思っており、貴重だと思う。当然観光の立場からいえば、おかげで淡路島に来てくれる人が増えるし、注目されることが、すごくあると思うので、できるだけ今後は対話、情報共有を密に取りながら、これからも進めていったらいいかと思う。自然とテーマパークというのは反する部分もあるとは思いますが、今の状況というか、どっちが多くなる、少なくなるというのではなく、その辺も話しながら進めていけばうまくいくのではないかと思っているので、このままぜひ進めていけたら私は思う。</p>
小南委員	<p>まずは遅れてきて申し訳ないが、なぜ遅れたかという、実は7年前から、淡路島を求めてフリースクールを作るということで移住してこられて、その人たちがたまたま冒険の森に行きたいということで、その責任の方と話をしており、時間が間に合わなかった。パソナさんの影響もすごくあって、今、淡路市はすごく活性化されてきている。特にこの周辺で、東浦の方では地価もすごく高くなって、新たに住もうと思っても、住むところがないような状況になってきている。だから効果はすごくあったけれど、今心配しているのは、いかに自然を保っていけるかで、気候変動とかもあり、それからいつ食糧難に陥るか分からないような状況の中で、農業をやっている人たちが移住して、自然農法とかやっている人たちも大勢いる。そういう人たちがこの島の中で暮らしていただけることが、島全体が豊かになってくることであると思うし、これからの時代、いわゆる生きていくための食料であったり、住むところであったり、そういうところが一番確保されているというか、そんなところが豊かな場所であると思う。公園だけのことではなしに、やはりこれからはもっともっと色々な面で人が生きていけるような環境をいかに残していくか、維持していけるかということも考えながら進めていかないといけない。この公園もまだ自然の部分たくさんあるので、これ以上自然を壊さないように、みんなで守っていきたい。</p>
坂田委員	<p>7回全て参加させていただき感謝する。公園で、私は民間という立場</p>

発言者	発言内容
	<p>で参加しているが、一方で公園は日本に確か10万1千個公園があつて、中規模クラスの公園が210個ぐらいある。どこの地方も、都心は別であるが、人口が減って行って、なかなか利用者が難しくなっている。そうすると相対的に指定管理料の負担がどうしても多くなるという、何か色々な課題がおそらく公園にあるだろうと思う。そういった部分にも、今回僕は9年関わらせてもらいながら、一方でやはりそういうのが垣間見えてくるものがある、これは日本全体の課題にもしかしたらなってくるのではないかというふうに思う。その中で、せっかく民間活力を使ってくださっているの、我々も後に続くようなものが1個、象徴的なものがきちんと活動として残せるようにというふうに改めてやっていたらいいかと思う。</p>
<p>関委員</p>	<p>7回会議に参加させていただいて、淡路島公園で子どもが小さい時に遊ばせていただいて、この前、公園の中をいろいろ現場見せていただいて思ったことは、淡路島公園は綺麗だし広いし、公園の中を歩けば本当に何か心が洗われるし、本当にいい公園なので、このまま残ってほしいなど、残していきたいと思った。あと昭和池の周りも、実際また歩けるようにしていただけるということが、私はこの会議に参加させていただいて一番嬉しかったことであつた。私は日頃、小さな子供と親と相談する場とか、そういうのをさせていただいているが、クレヨンしんちゃんが可愛いから、そこで待ち合わせねとお母さんたちは言っているので、そういう意味ではクレヨンしんちゃんの可愛いものができてよかったと思う。初めの頃、9年前だったか、火の鳥を夜見に行く方がいて、それからどんどん変わって行って、私も中身はよくわからないが、鬼滅の刃の時は少しびっくりしたこともあり、そうやって変わっていくものもあって、民間として人が呼べるということはすごくいいことかと思うが、やはり一つのもので変わっていくと、その変わった場所を有効に活用してもらえば、自然のところに侵略というか、出ないでできるので、やはり自然のあるところはたくさん残していただいて、ニジゲンノモリには活躍していただいてという感じで捉えた。楽しもう会の方も本当に公園のことを思って活動してくださって、自分のためにも活動してくださっていると思うが、私もお母さんたちに、子どもたちにも、これから財産として淡路島公園を残してほしいと思う。公園で楽しもう会がイベントとかなさっているが、そういうのがあまり私には伝わってこないの、もし公園のイベントとか、こういう楽しい催しするものがあるよと、ニジゲンノモリ以外の場所であるのであれば、そういうのがわかるような仕組みにしていれば、もっと淡路島公園をいろんな方に楽しんでもらえるかと改めて思った。</p>
<p>住様</p>	<p>山本会長の代理ということで、途中から参加させていただいたが、1回目2回目も傍聴させていただいた。1回目2回目の時も、淡路島公園を腐す会みたいになっていて、すごく悲しかった。歩くのがしんどいと</p>

発言者	発言内容
	<p>か、汚いとか、マムシがおるとか腐されて、そうではないということをとにかく伝えないといけないと、素晴らしい公園だということをお伝えしないといけないと思って参加させていただいて、それで今こうして皆さんに綺麗な公園、いい公園だと言ってもらえるようになってとても良かったと思う。その上で本来参加すべきであった山本会長の思いを最後少し言わせていただきたい。とにかくこの公園を長いこと自然豊かな状態で残してほしい。人間のやることというのは有限であって、ここに建物を建てるであるとか、色々なことをしていても、それはどこかで終わるけれど、終わった時に、もう元に戻らないような状態にしてほしくない。将来の子どもたちのためにも、今までの子どもたちが楽しんで育ってきたこの公園をずっと残してほしいということをおっしゃっていた。それが一番の望みだと思う。そういうことを言うと、「失礼な、ニジゲンノモリは永遠にここにあるのだ」と言われるかもしれないけれど、やはり企業活動というのはこの間おっしゃっていたが、採算が取れないのであれば、撤退を考えるとおっしゃった通り、それは絶対あることだと思う。利用、利用とおっしゃるけれど、あること自体に価値があるというのが、都市公園の管理運営方針にも書かれている。公園と一口にいうが、都市公園で法律の縛りがある公園である。だからその法律の縛りを抜けるということはできないし、都市公園としての価値を失ってしまえば意味がなくなってしまうので、都市公園であるということとを強調して終わりたいと思う。</p>
澤田委員	虫がいっぱいいるというのは、腐していることになるのかとちょっと思った。
住様	マムシである。
澤田委員	<p>マムシもすごくいいと思っている。マムシが支えられるぐらい豊かな生態系があるというのはすごく大事なことである。</p> <p>それは置いておき、今回7回かけてようやくこのあり方検討会の成果として自然環境保全・活性化に関する基本的な考え方がまとまって、これはすごく良かった。その間に色々とかかなり言いたいことも言えたとし、色々な意見がいろんなところから出てきていたかと思う。これができたことで、今後の合意形成のプロセスのターニングポイントになっていると思う。タイトルに「自然環境保全と活性化」と書いているが、公共と民間活力をどうやってうまく重ねていくかというところだと思う。民間活力による活性化は、その民間だけが潤うという話ではない。公園が潤うために民間活力を導入している。なので、今後きちんとこの公園の維持・保全・管理に活性化したなというのを見えるようになってほしいと思う。そういうふうにしていくための土台がここにあると思う。あとは、お金の流れ。きちんと公園の維持、保全管理にニジゲンノモリが入れてくださっているものが、県の都市公園、ここだけでなくもいいと思うが、色々な公園できちんと公園が良くなるためにそれが使われてい</p>

発言者	発言内容
	くことが大事なんだろうと思う。これは私の希望である。
高田会長	<p>皆さん、7回に渡りあり方検討会で議論していただき感謝する。今、皆さんの感想を聞いていて、とても感慨深いなと思いながら皆さんのコメントをお聞きしていた。私自身、その都度の会議をうまくマネジメントできずに時間がオーバーしてしまうなど、その回で消化不良に終わることも多かったと思うので、その点はまずお詫びを申し上げたいと思う。今日は時間通りに終わりそうで、ゆっくりと話せるので、安心している。私自身、会長という役割で皆さんの意見を色々と引き出して、この公園の価値をどれだけたくさん、色々な視点からみんなで共有できるかということだけを意識して、この7回の会議の進行に努めてきた。本当に今日、第7回の最終回にして、本当にとってもいい議論ができたと思う。この具体的な草原のゾーンのあり方をめぐる議論であったりとか、ニジゲンノモリもなかなか言いづらいことをアドリブで情報を出していただいて、そこに対してみんなで意見を言ったりとか、そういったことができているので、今後新しくこのあり方検討会で決めて議論してきた体制の中では、うまく対話、コミュニケーションが促進されていくのではないかと確信を最後持ってこの会を閉めることができそうである。私は合意形成を専門にしているので、澤田委員がおっしゃったみたいに公共利用と民活導入みたいな、一見相反するように思えるようなところの現場によく出ていく。そうした時にどちらか一方を優先するという議論をするための合意形成というのは無理で、公共利用と民活というものが融合して新しい第三の新しい価値をみんなで見出せるかどうかということだけが合意形成の道になるの。まさにそのきっかけをこのあり方検討会では作れたかと思う。今後新しい仕組みの中で対立とか一時の意見の食い違いとかそういったものを恐れずに、自分と考えの違う人の声を聞き、自分のことも言い、それを恐れずにずっとやっていくということが大事である。その先に今まで自分たちが思いつかなかったような新しい公園の価値というものが見えてくるので、それはこの公園に関わるすべての人にそういう気持ちで公園づくりに自分が主役として関わっていただきたいと思う。具体的話はこれから勝負で、これから具体的に動いていく。その中で淡路島公園をより良くしていく、あるいは現状の良いところを残していく、未来に残していく活動がこれから始まる。その時にもう一つ、自分の個人的な考えを言うと、課題解決志向も大事であるが、あるものを肯定する。あることを面白がって肯定して、それを残していくという視点、これはすごく大事である。課題解決思考だと、悪いところばかり初めに出て、それは変えないといけないことという議論になってしまうけれど、今あるものの素晴らしさをどう伸ばしていくのかという視点で議論すると、具体的に見出される方策も変わってくる。そういったことをこれから淡路島公園、あと石の寝屋緑地は今回切り離して議論することになったが、石の寝屋緑地についてもそういうこ</p>

発言者	発言内容
	<p>とで、この貴重な環境の中で育った子どもたちが、将来自分のふるさとの風景になると思うので、そのふるさとの風景は自然豊かで、マムシがいて、虫もいっぱい飛んでいて、花も咲いていて、クレヨンしんちゃんもいて、鬼滅の刃があり、ドラゴンクエストもできてというのが、今の子どもたちの原風景になっていく。今の子どもたちの故郷の風景をみんなが作っているという認識で、これから新しい体制とゾーニングの中で、公園のより良い維持に、私も影ながら色々とお力添えしたいと思う。今日はゾーニングなど具体的なところもかなり議論できたので、4月以降、繰り返しになるが、なるべく早めに、新しい体制で対話ができるようお願いをしてこの回を締めたいと思う。</p> <p>このあり方検討会の議論は密であった。年間で7回、2ヶ月に1回ぐらいの頻度というのは他の公園ではあまりない。それだけ密にすごくいい議論ができたと思う。最後にあり方検討会にご参加いただいた方、今日欠席されている方もそうであるが、あとは公園に関わっている全ての方々に感謝と敬意を表して、このあり方検討会をクローズする。</p>

以上